

2025（令和7）年度 調査研究事業

# 高齢者層における男女の ジェンダー意識に関する調査 報告書

---

## 基礎データ

---

調査目的：今年度は、高齢者層に焦点を当ててジェンダーに関する意識を分析し、男女の役割分担に対する考え方の現状を把握することを目的として調査を実施しました。特に、性別によってアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）にどのような違いがみられるのかを明らかにしました。

来年度は、若年層との比較分析を行い、世代間における意識の差異の検証を予定しています。その結果をもとに、アンコンシャス・バイアスに気づく機会を提供し、理解を深めることで、課題の把握と解決に向けた方向性を探ることをめざします。

調査期間：2026年2月1日～28日

調査対象：広島市内の65歳以上の方

調査方法：調査票（質問紙）及び Google Forms を用いたウェブ調査

回答：251（有効回答244）

有効回答：244		
性別	女性	男性
	162	82

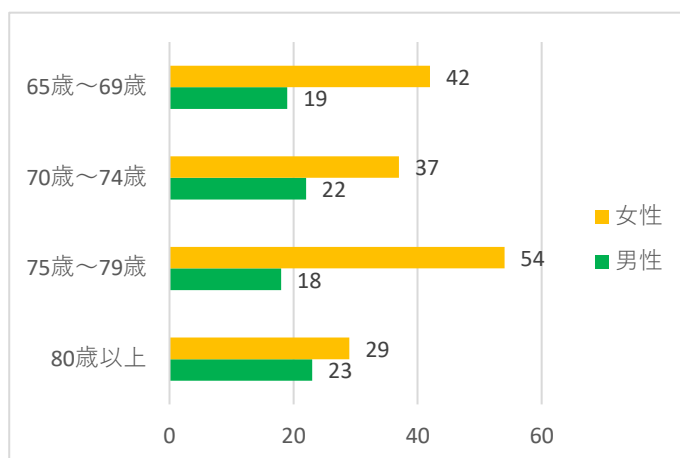
# 1. 回答者の属性

## (1) 年齢

	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳以上
年齢	61	59	72	52
	25.0%	24.2%	29.5%	21.3%

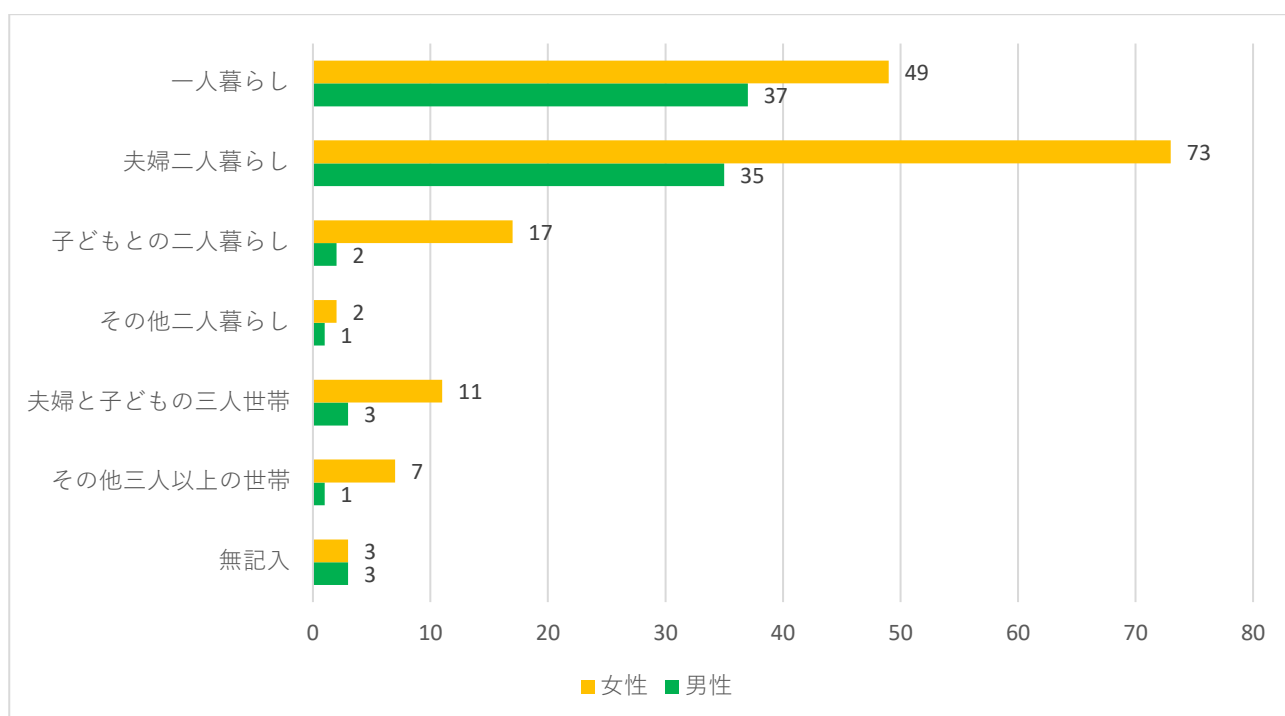
## (2) 性別

	女性	男性
性別	162	82
	66.4%	33.6%



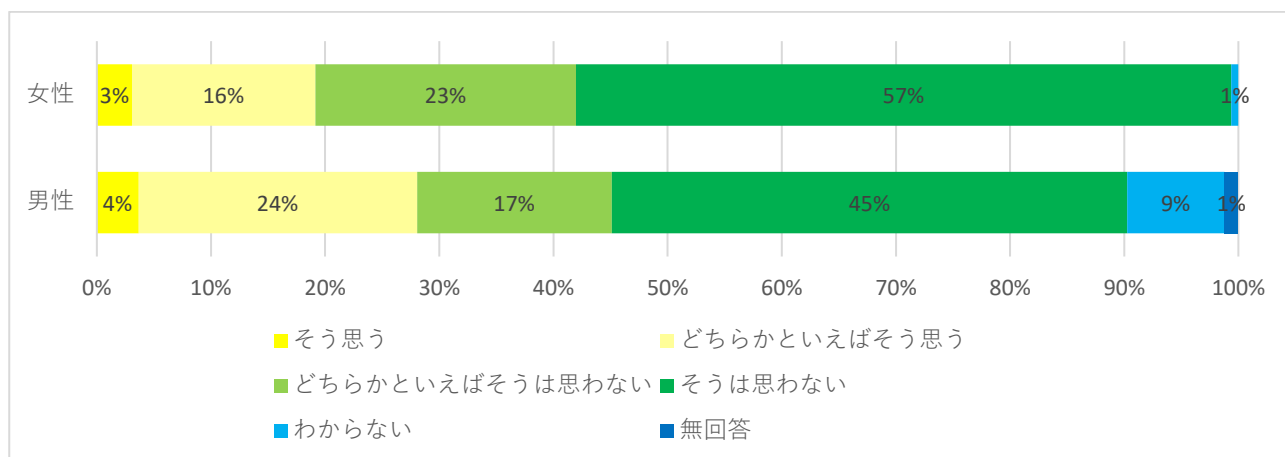
※「その他」と回答した人は 0

## (3) 家族形態



## 2. 生活における役割分担についての考え方

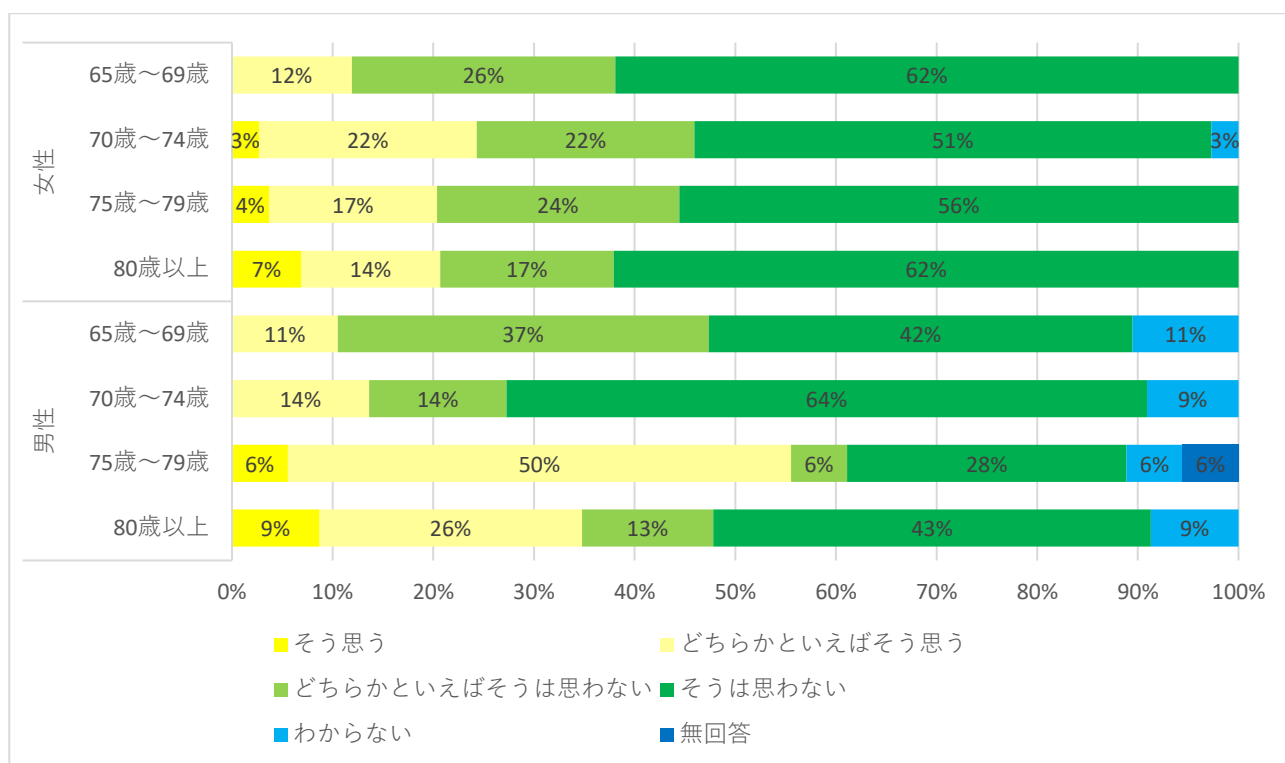
### (1) 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、どのように思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

『男性は仕事、女性は家庭』という考えについて、どのように思いますか」という問いについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 19%、男性で約 28%でした。反対に「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 80%、男性で約 62%でした。

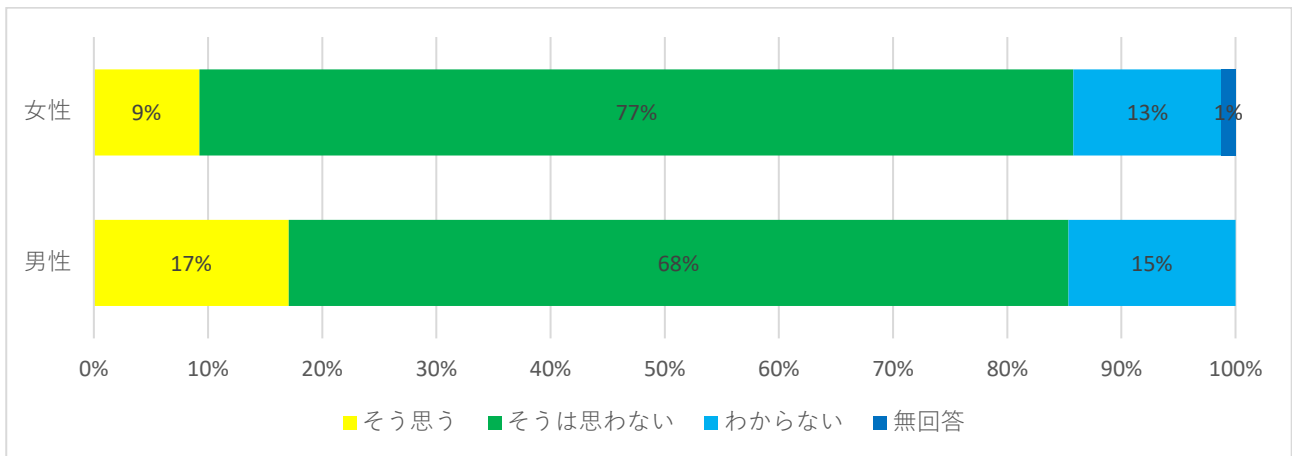
世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)

男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

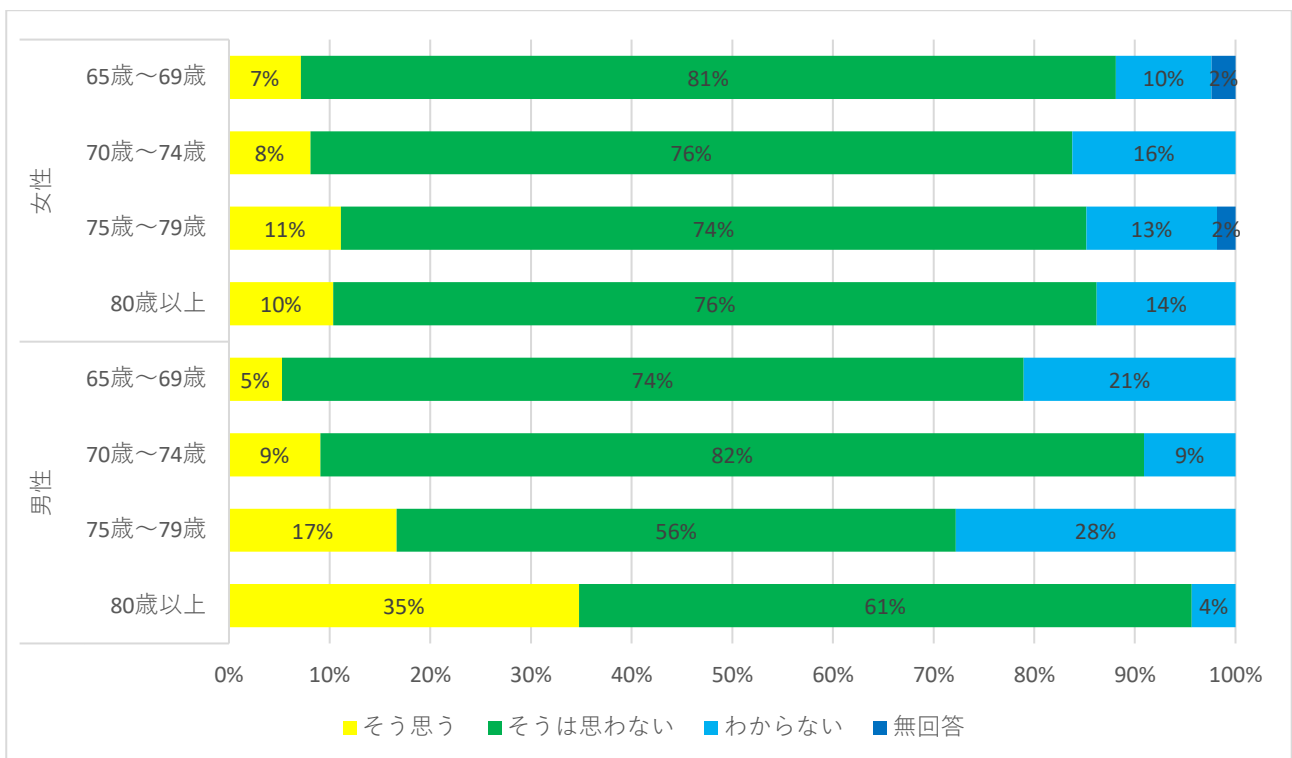
## (2) 結婚後、妻は家庭を優先するために仕事を減らすべきだと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

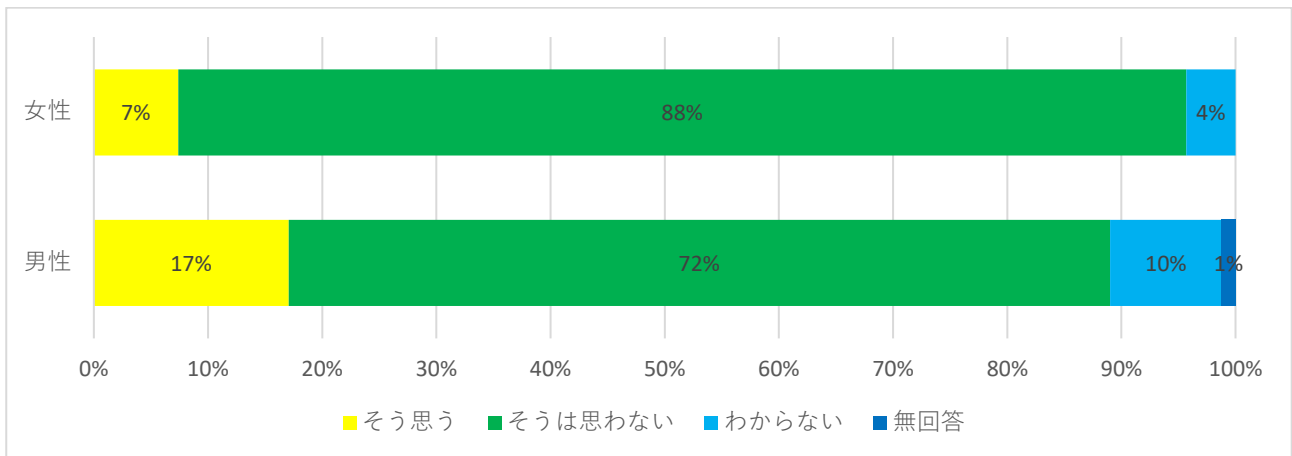
「結婚後、妻は家庭を優先するために仕事を減らすべきだと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約9%、男性で約17%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約77%、男性で約68%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

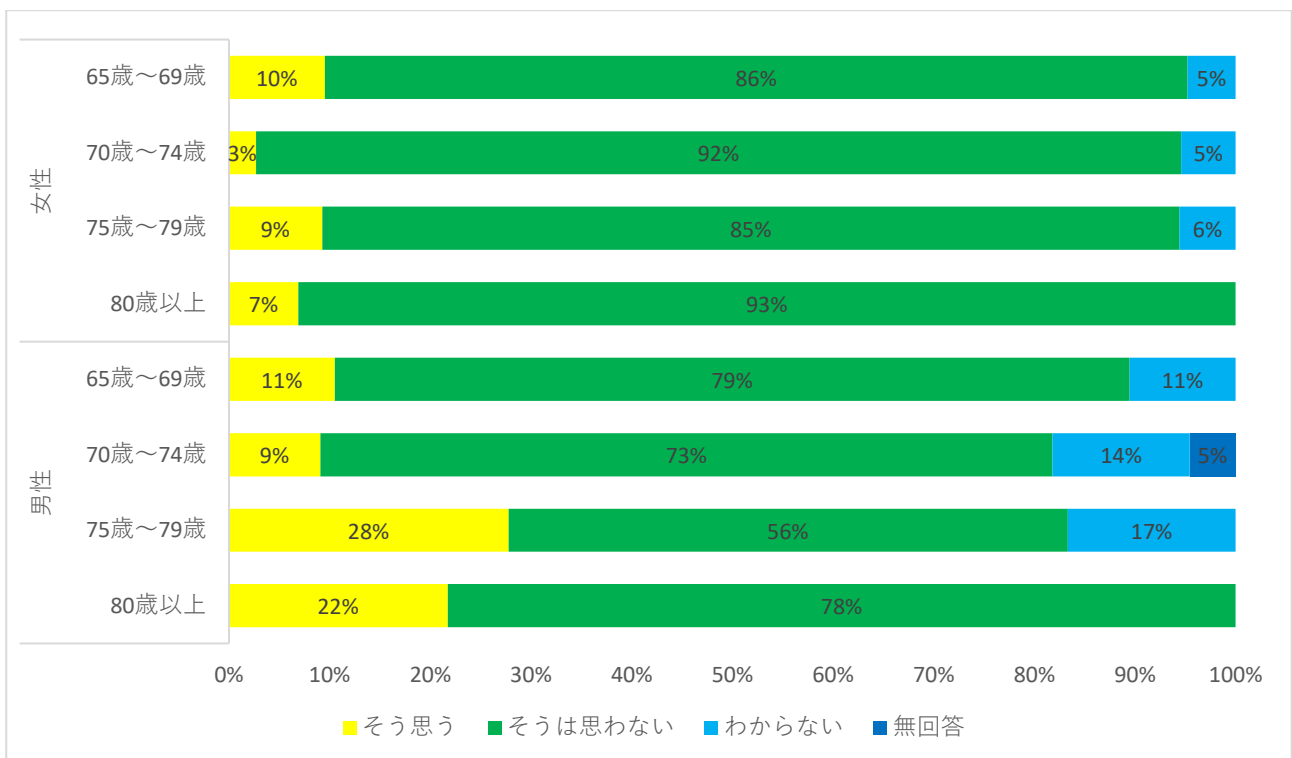
### (3) 育児は主に女性が担うべきだと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

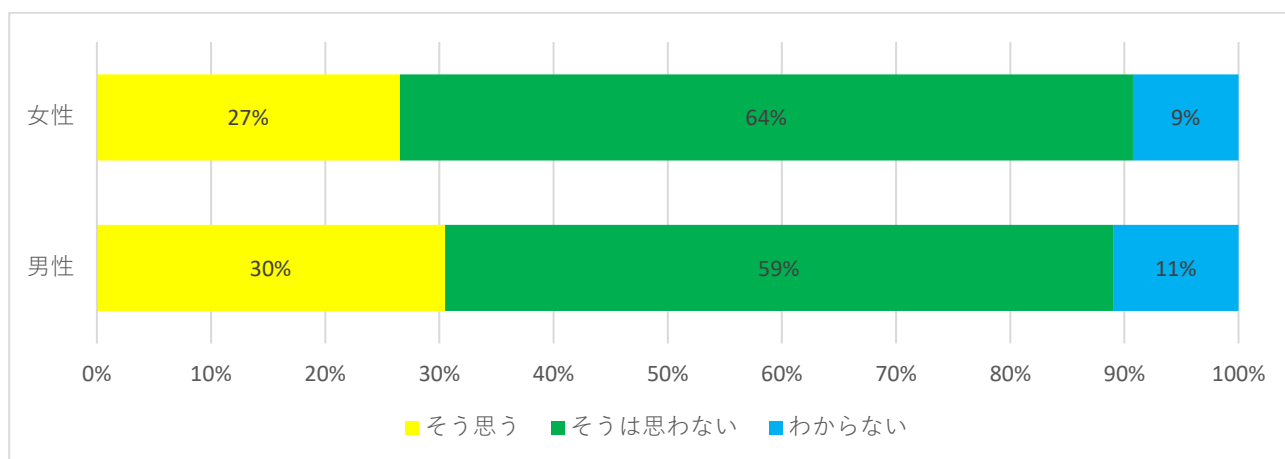
「育児は主に女性が担うべきだと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約7%、男性で約17%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約88%、男性で約72%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

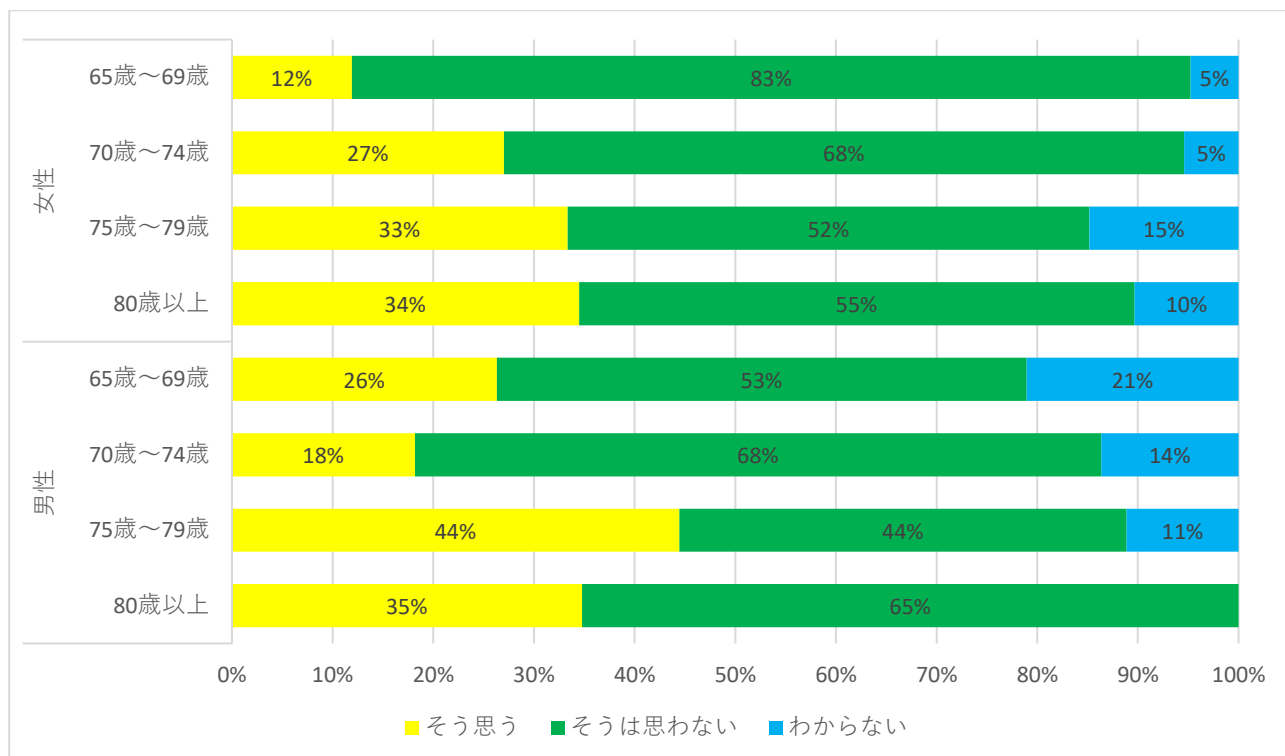
#### (4) 小さい子どもが病気のときは、母親が休んで付き添うべきだと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

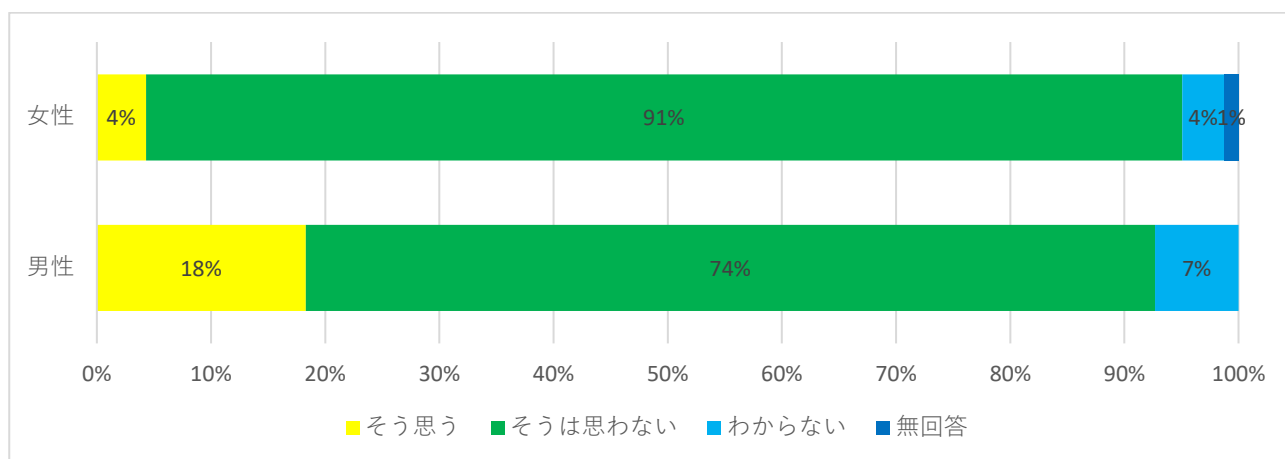
「小さい子どもが病気のときは、母親が休んで付き添うべきだと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 27%、男性で約 30%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 64%、男性で約 59%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

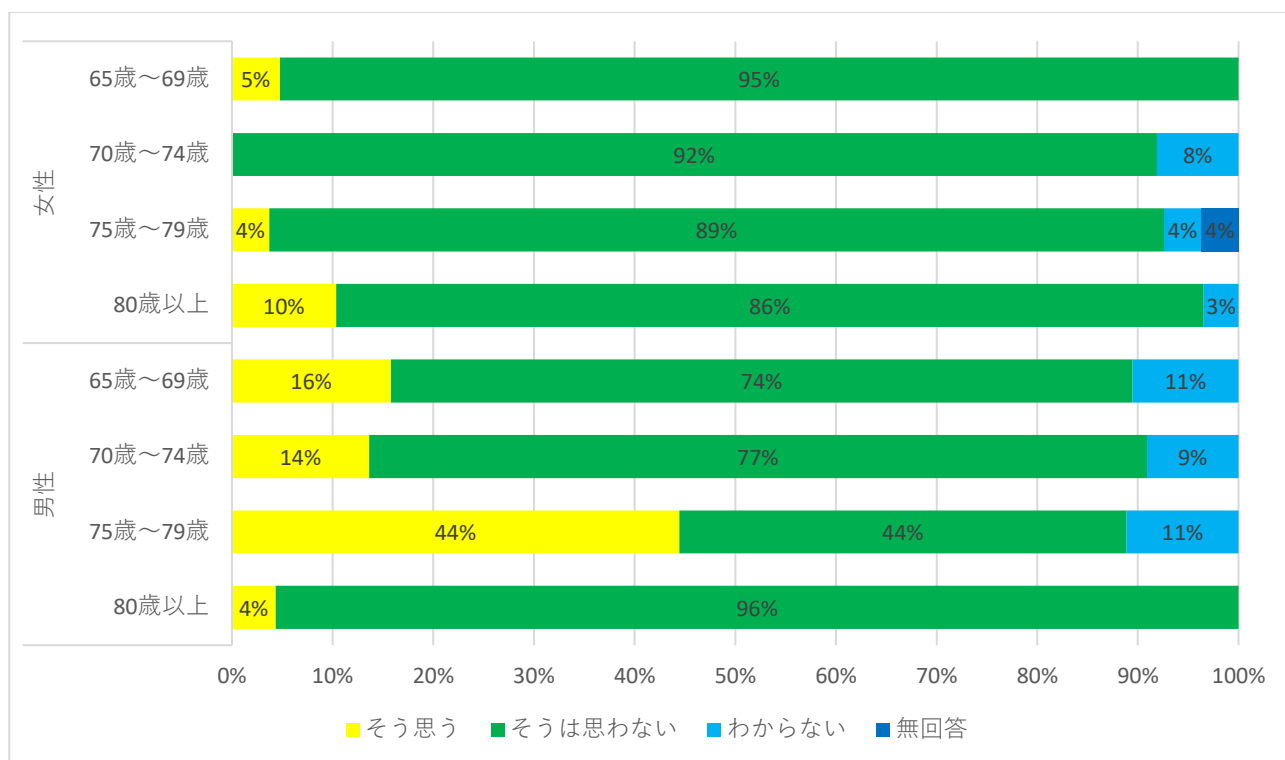
## (5) 炊事は女性が担うべきだと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

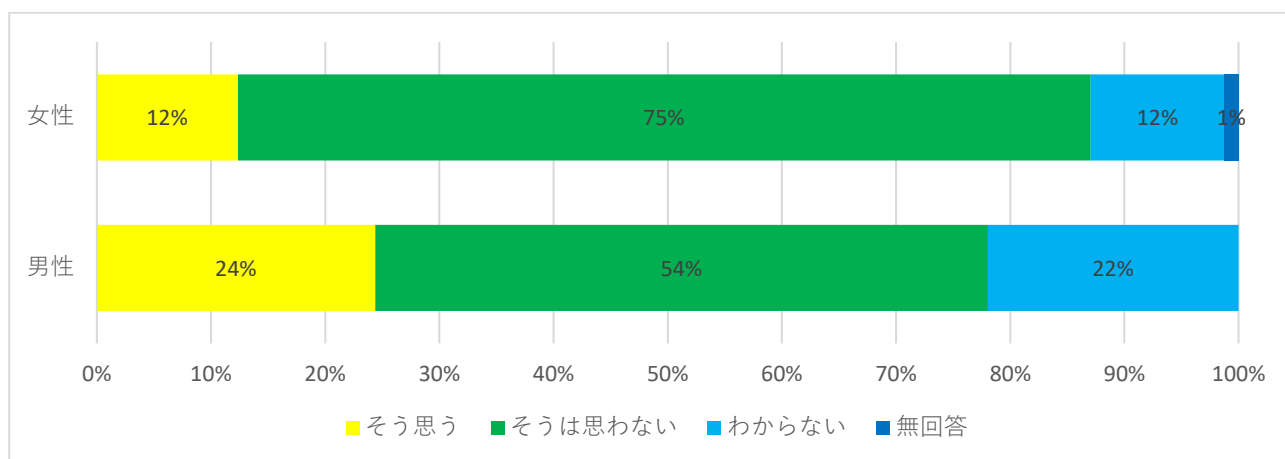
「炊事は女性が担うべきだと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約4%、男性で約18%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約91%、男性で約74%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

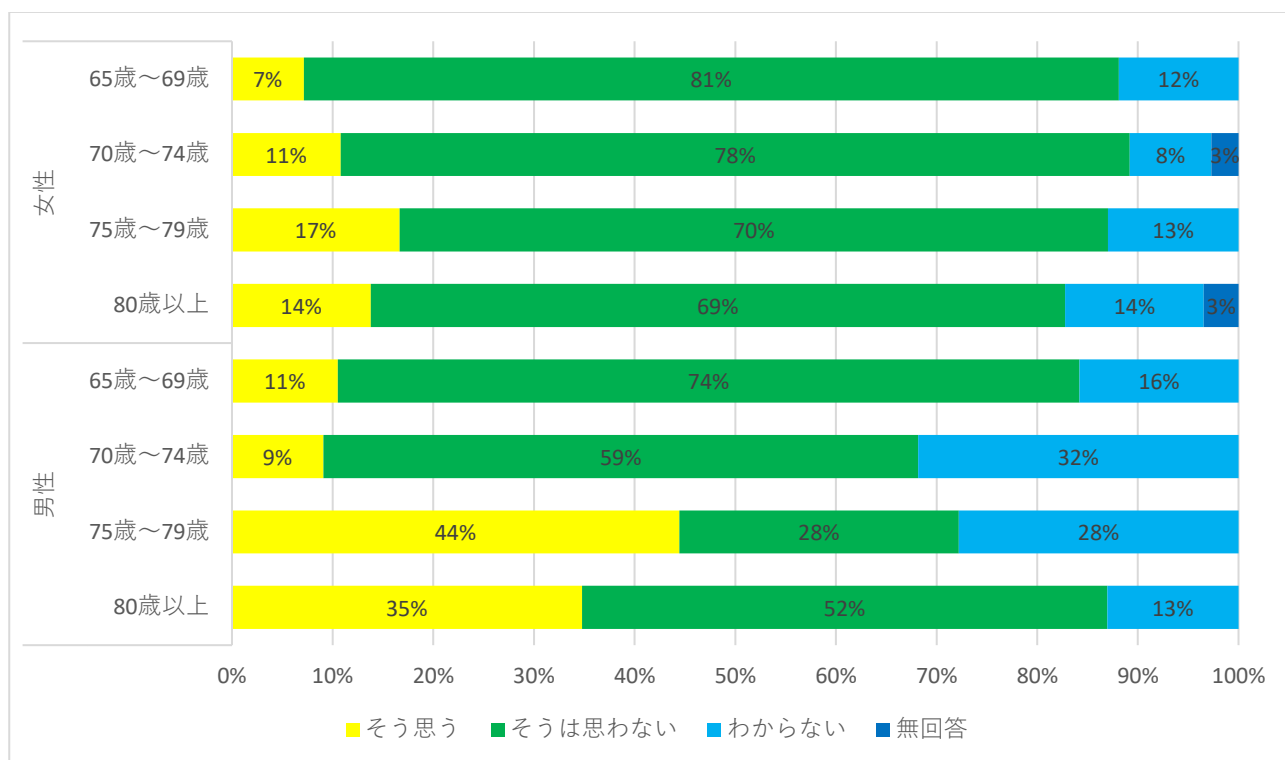
## (6) 親の介護をするのは、女性のほうが適していると思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

「親の介護をするのは、女性のほうが適していると思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 12%、男性で約 24%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 75%、男性で約 54%でした。

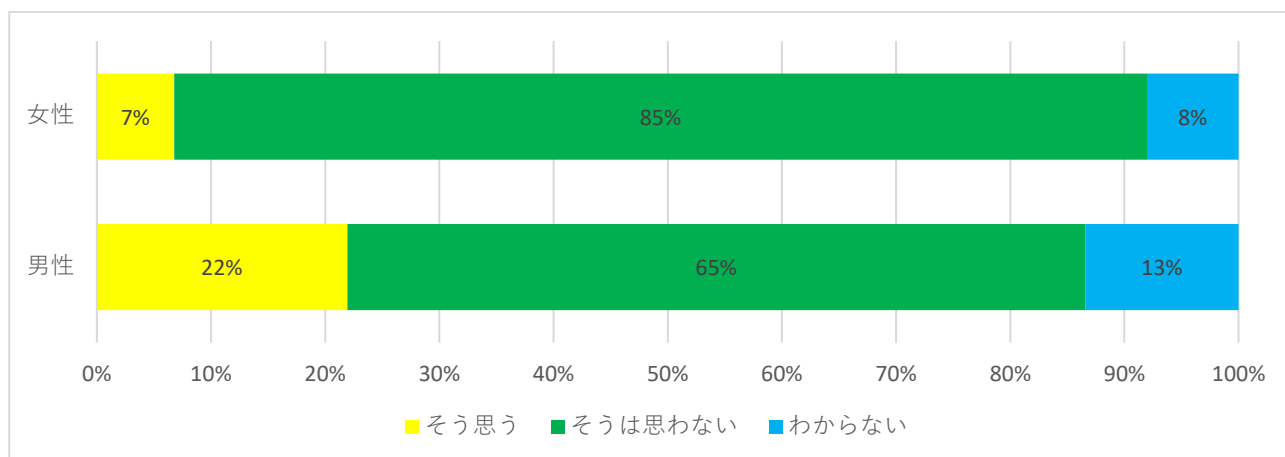
世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

### 3. 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について

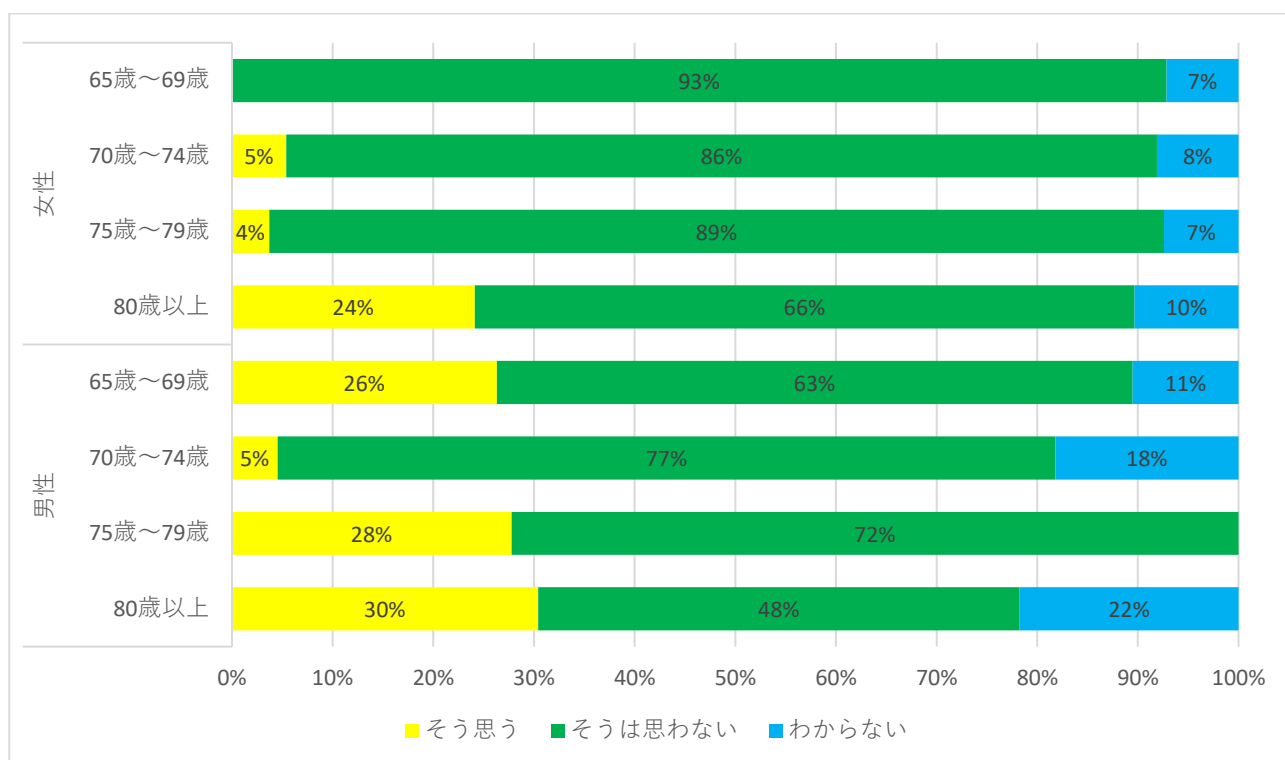
#### (1) 男性は人前で泣くべきではないと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

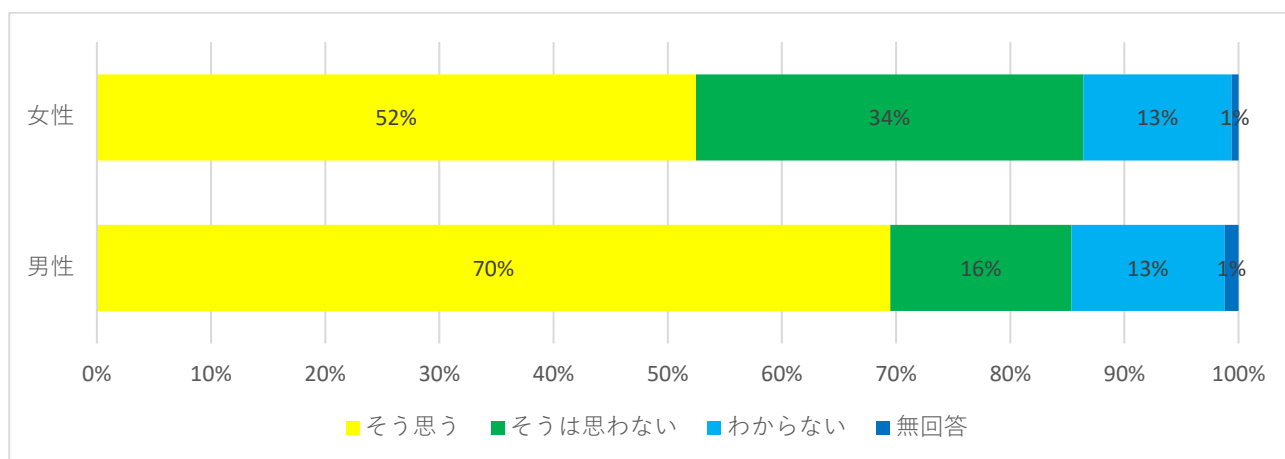
「男性は人前で泣くべきではないと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約7%、男性で約22%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約85%、男性で約65%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

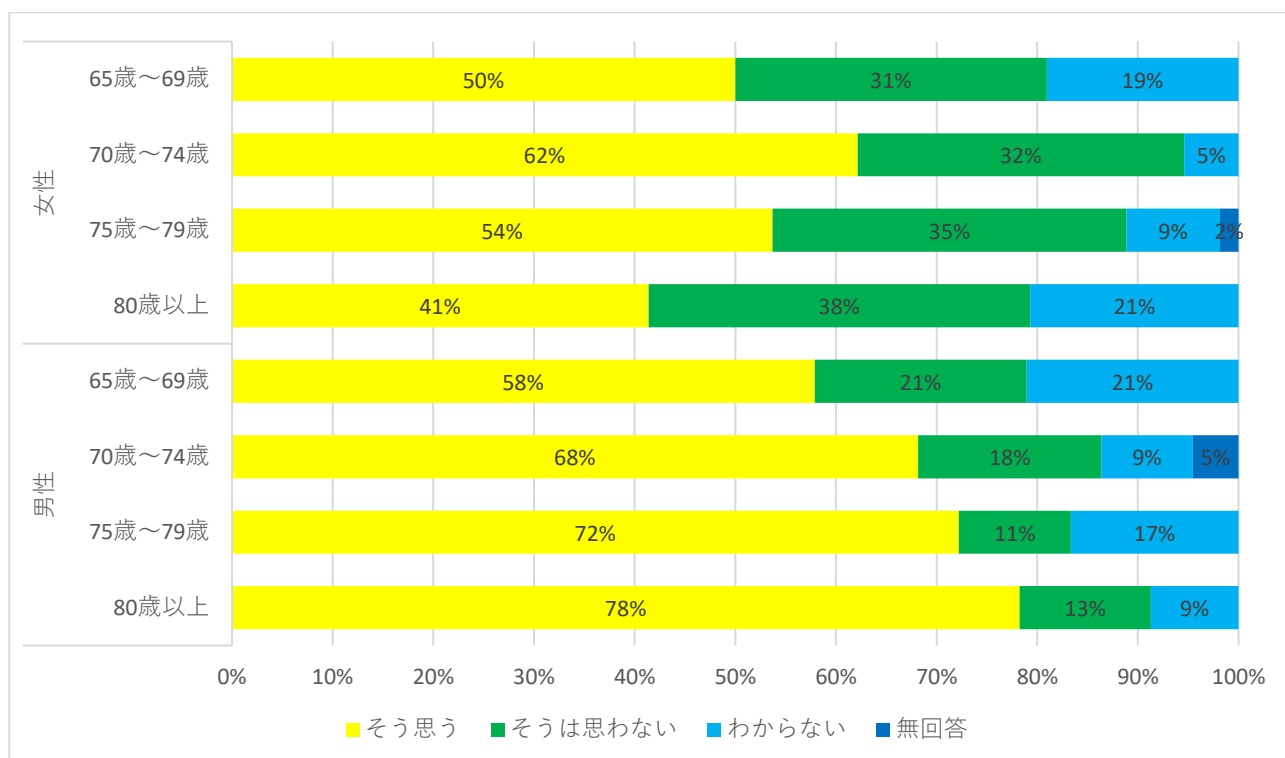
## (2) 女性には「女性らしい感性」があると思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

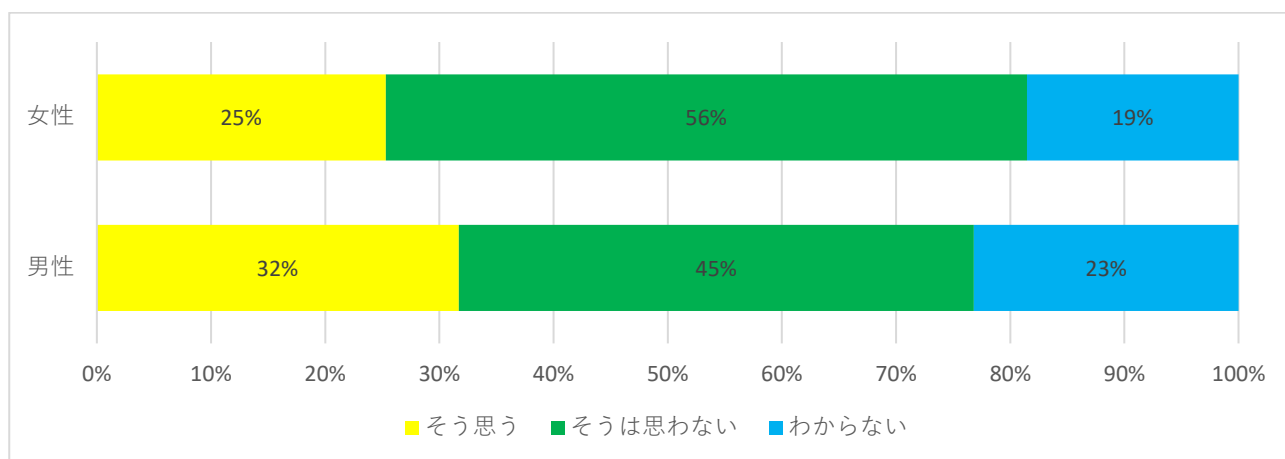
「女性には『女性らしい感性』があると思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 52%、男性で約 70%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 34%、男性で約 16%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

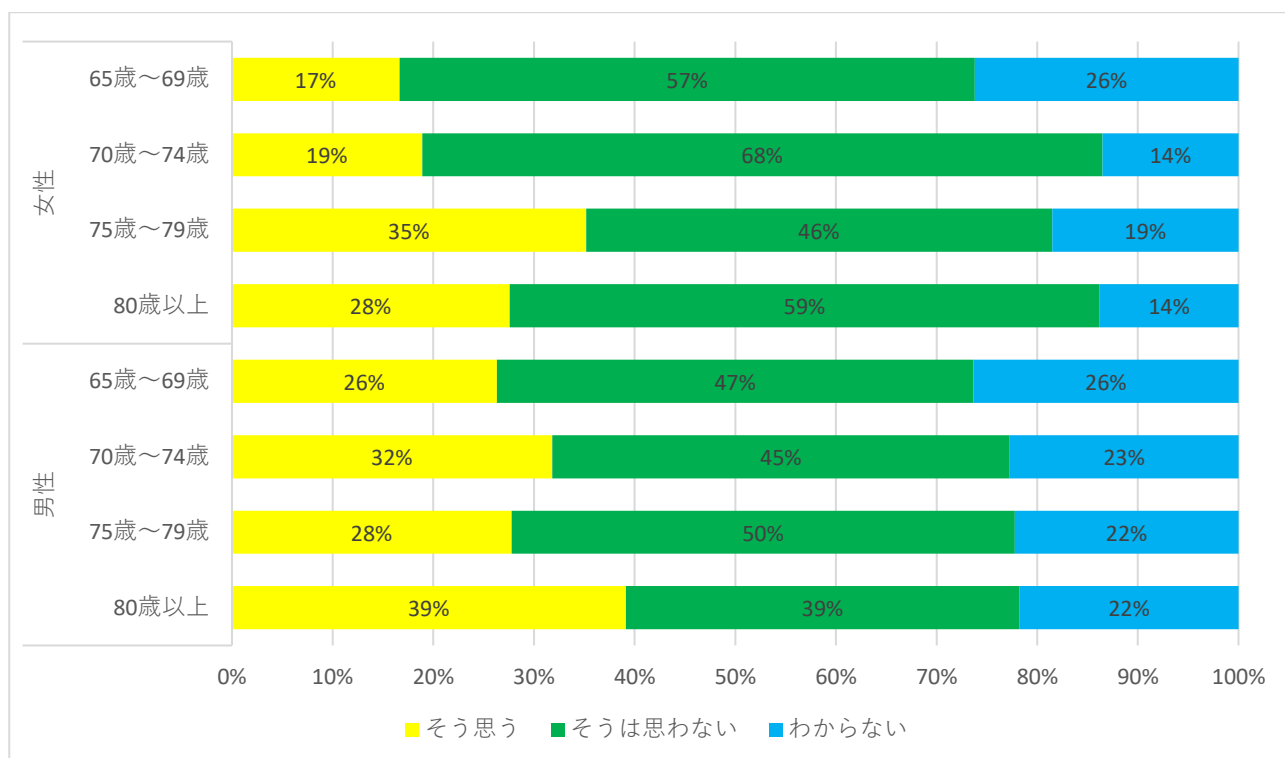
### (3) 女性は気を遣う仕事や細やかな作業に向いていると思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

「女性は気を遣う仕事や細やかな作業に向いていると思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 25%、男性で約 32%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 56%、男性で約 45%でした。

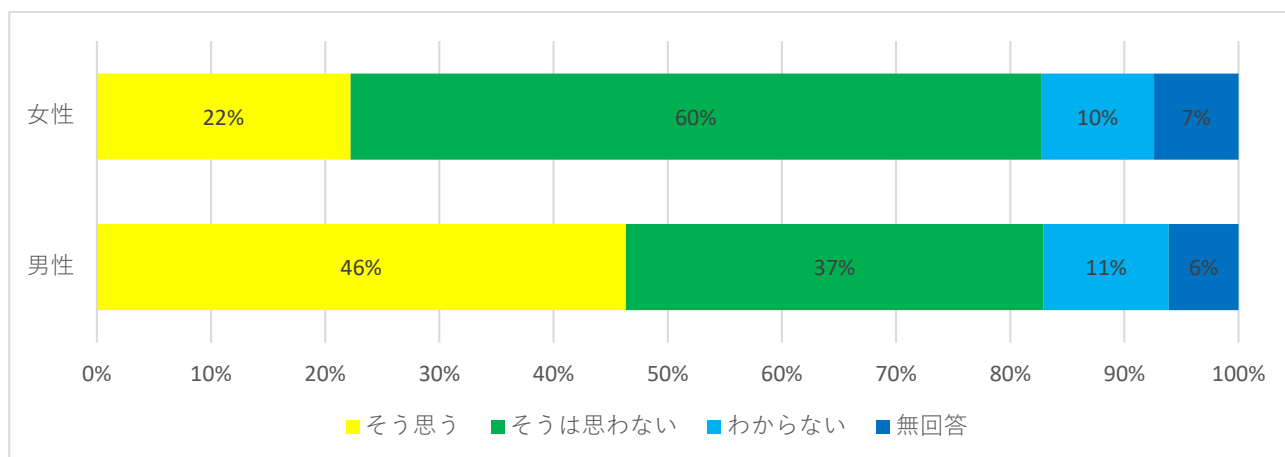
世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

## 4. 仕事についてのジェンダー観について

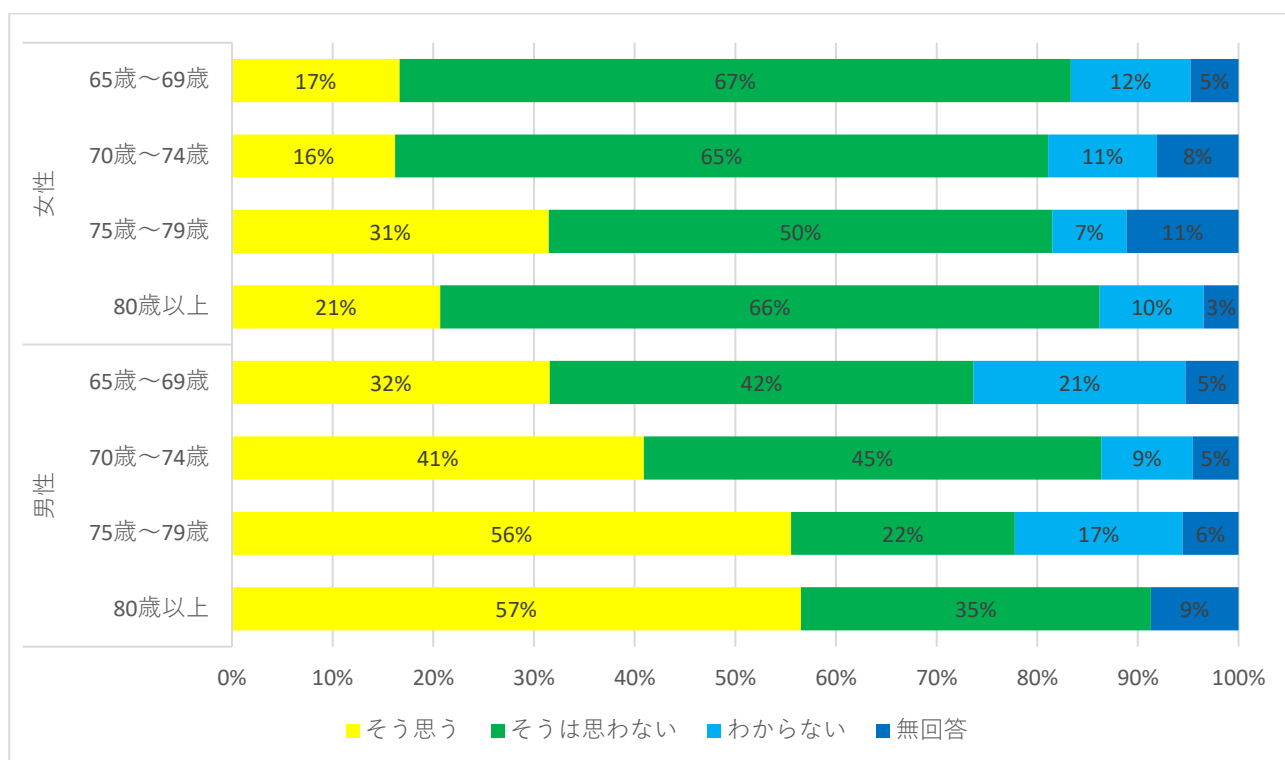
### (1) 女性の方がケアやサポートを行う仕事（保育士・看護師・介護士等）に向いていると思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

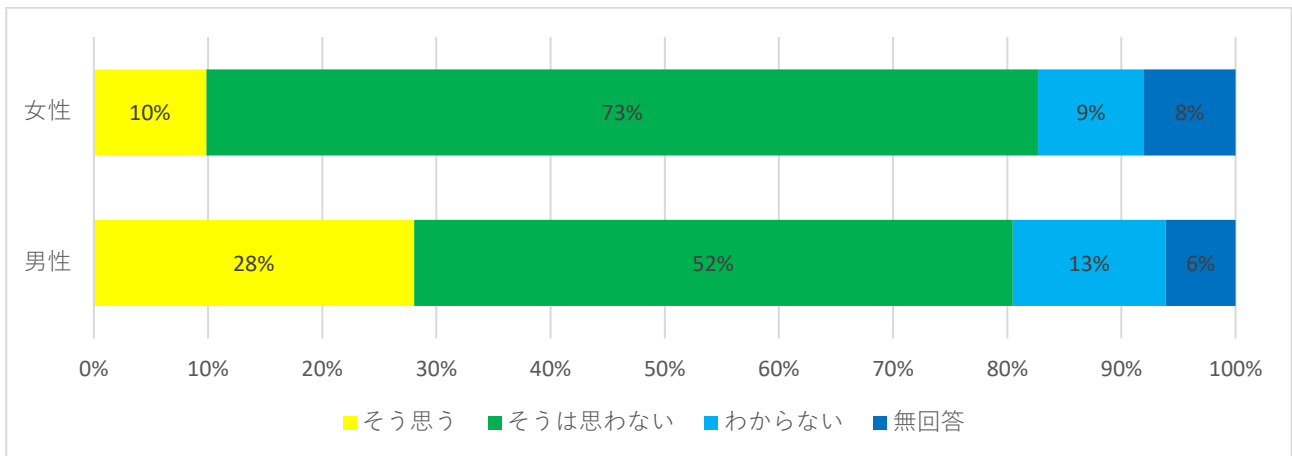
「女性の方がケアやサポートを行う仕事（保育士・看護師・介護士等）に向いていると思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 22%、男性で約 46%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 60%、男性で約 37%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

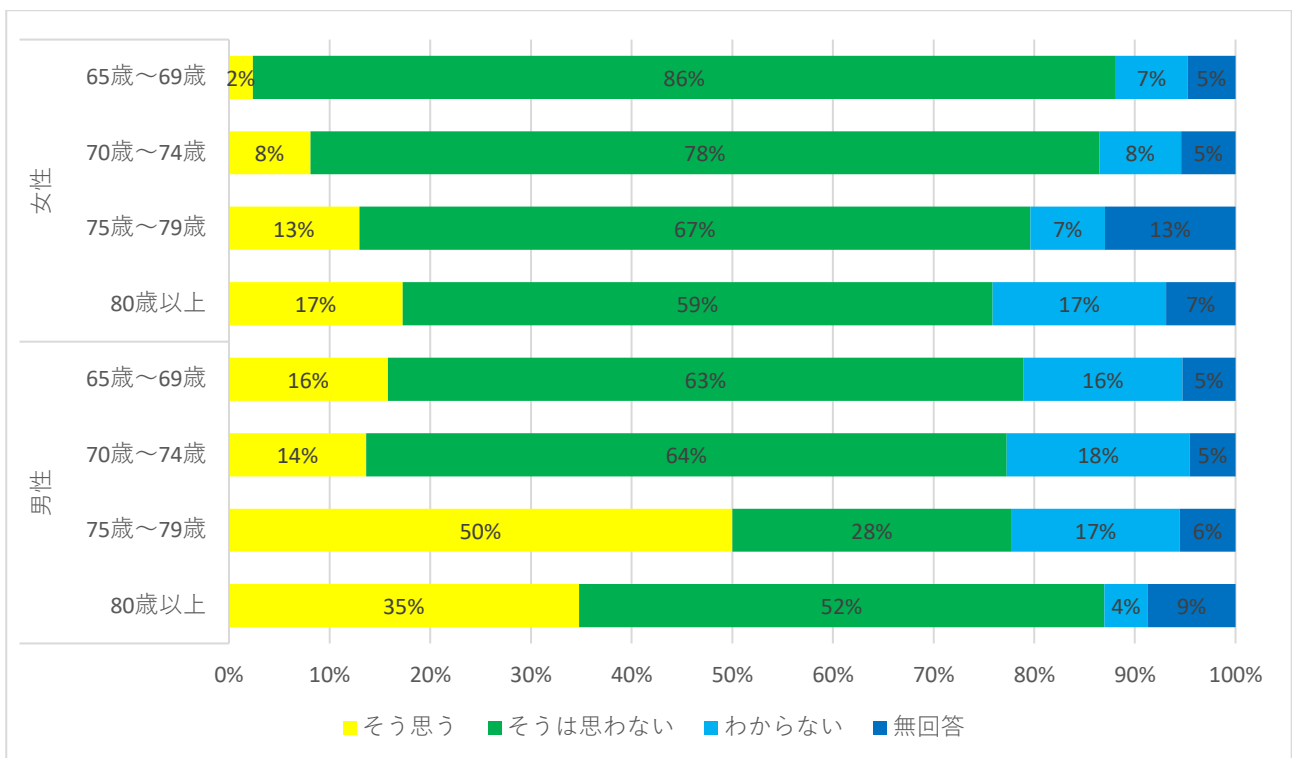
## (2) 男性の方が残業をした方がいいと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

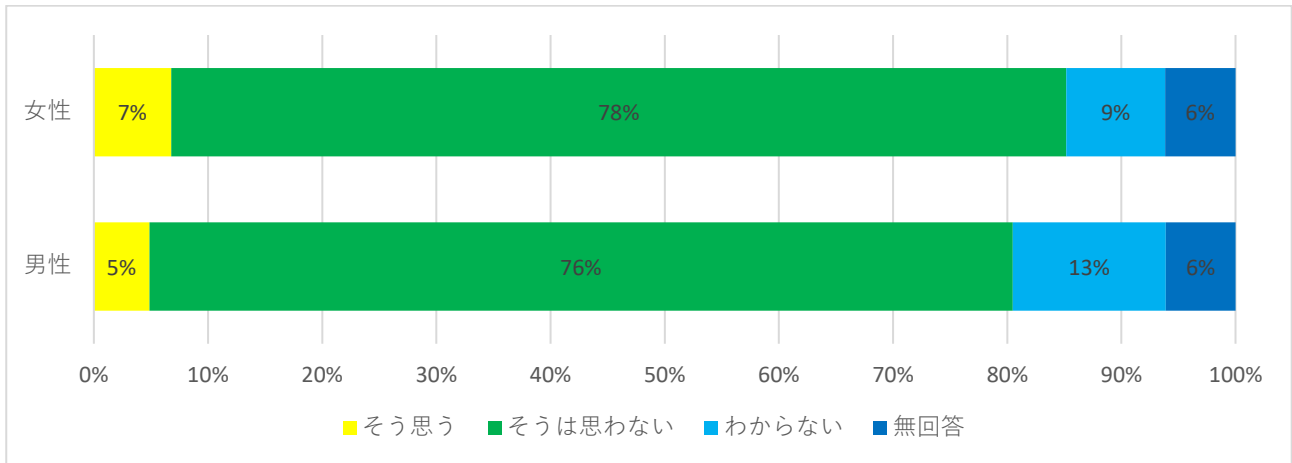
「男性の方が残業をした方がいいと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約 10%、男性で約 28%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約 73%、男性で約 52%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

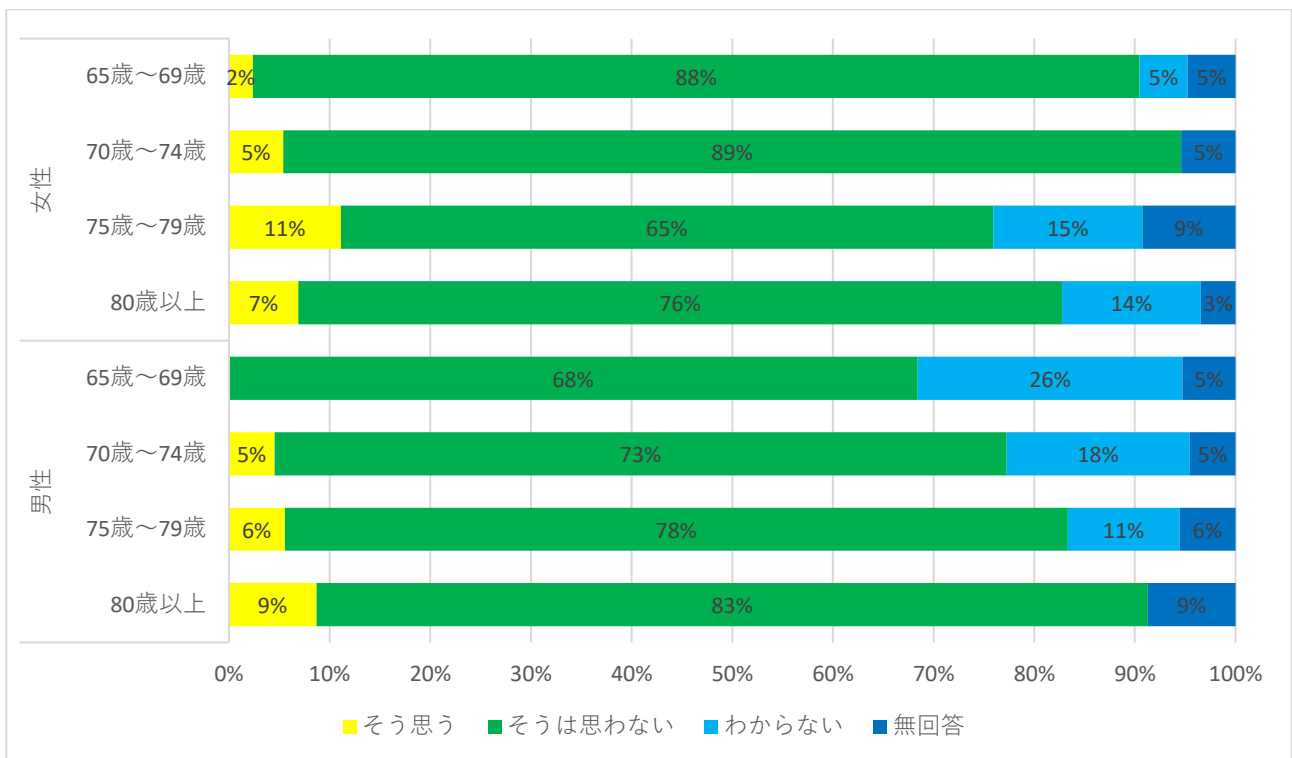
### (3) 管理職には男性の方が向いていると思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

「管理職には男性の方が向いていると思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約7%、男性で約5%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約78%、男性で約76%でした。

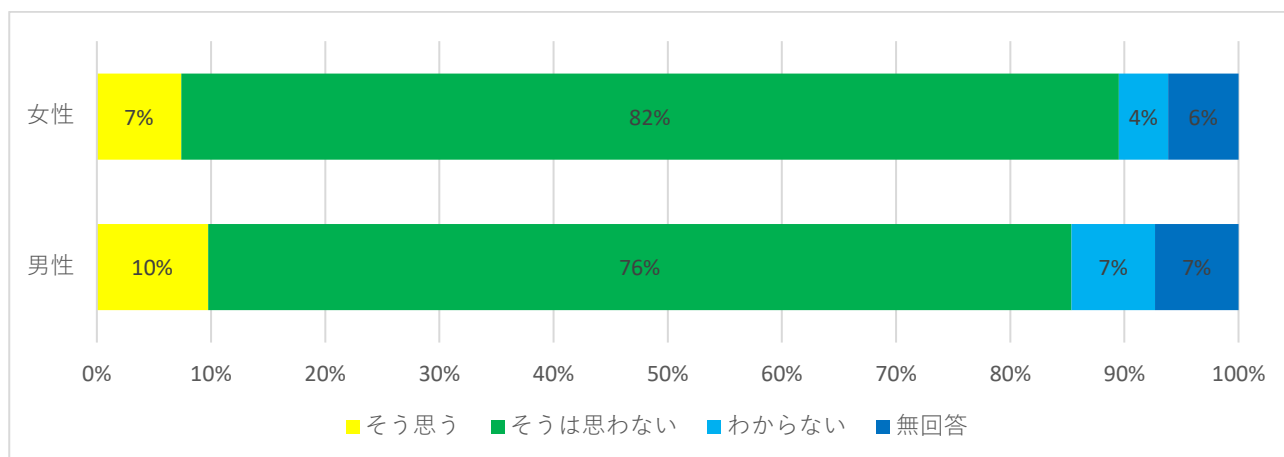
世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

## 5. 家庭内の意思決定について

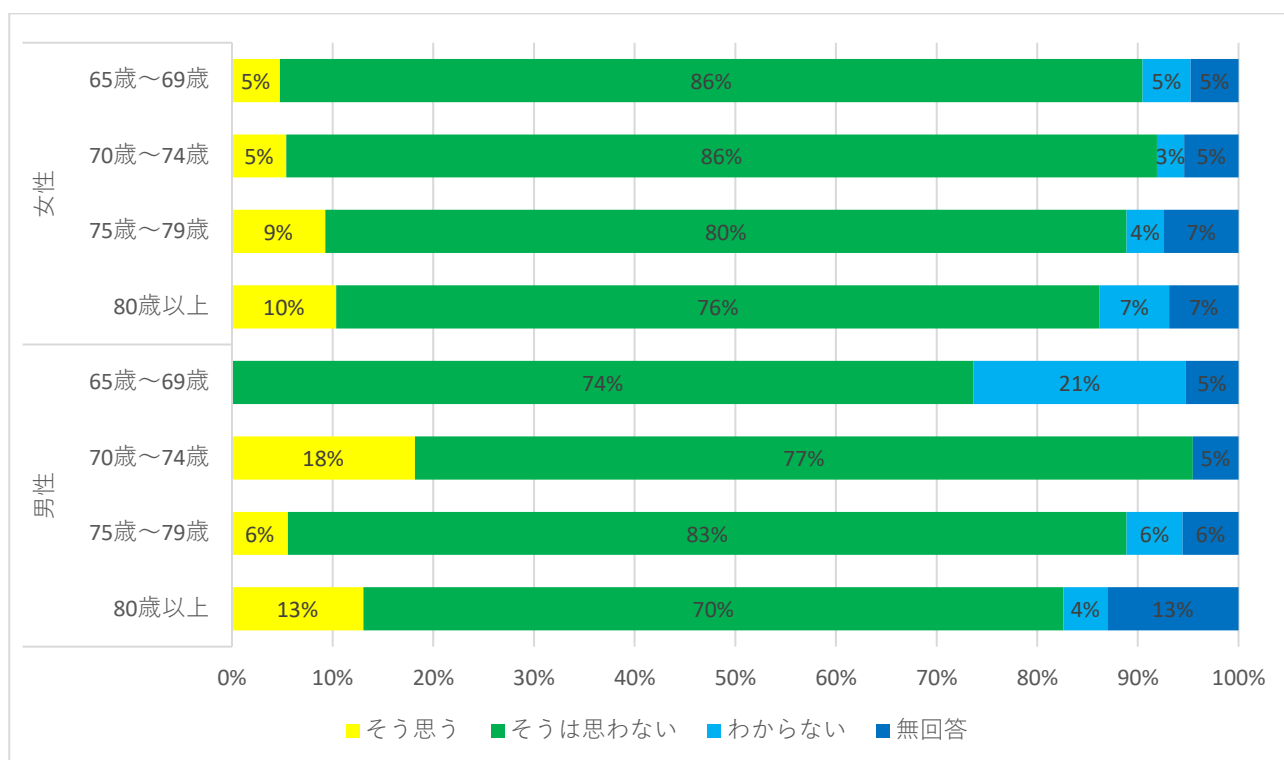
### (1) 大きな買い物（家・車など）の際は、夫が主導して決めるべきだと思いますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

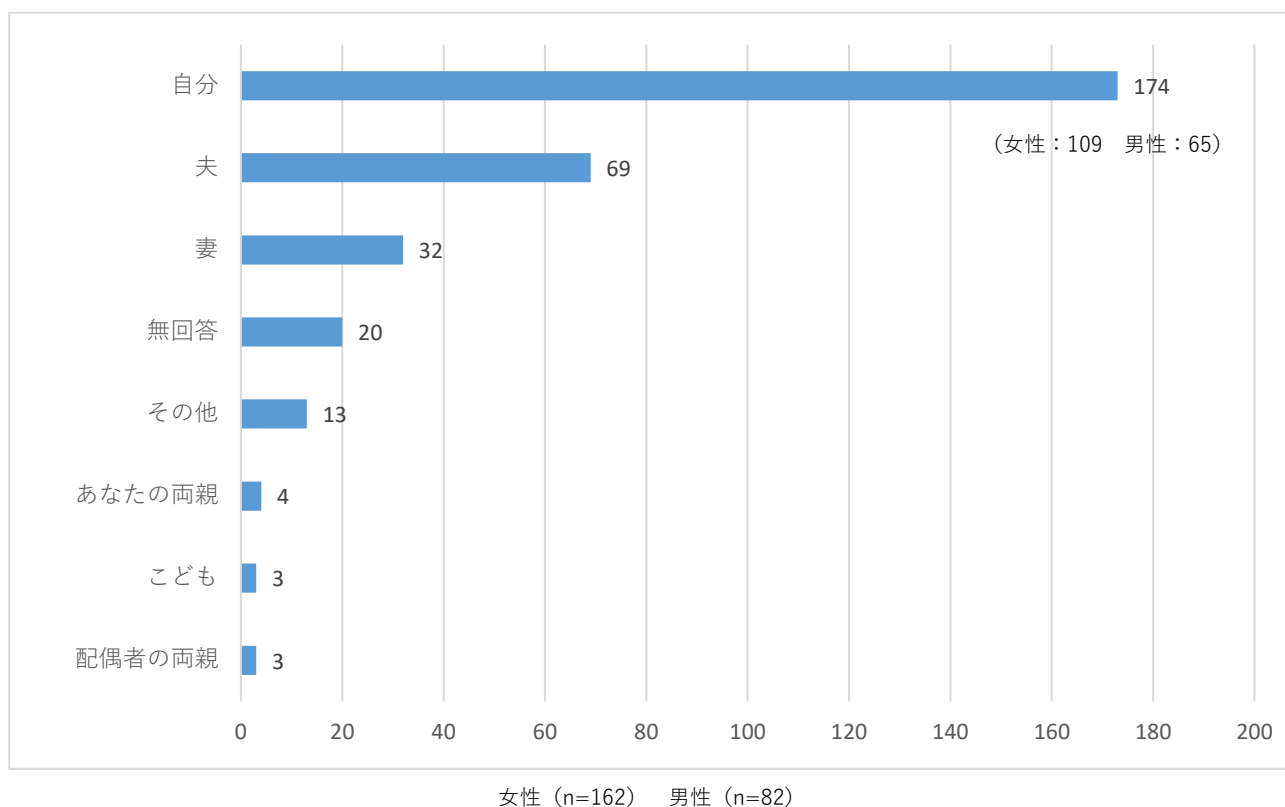
「大きな買い物（家・車など）の際は、夫が主導して決めるべきだと思いますか」という問いについて「そう思う」と肯定的に答えた人は、女性で約7%、男性で約10%でした。反対に「そうは思わない」と否定的に答えた人は、女性で約82%、男性で約76%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

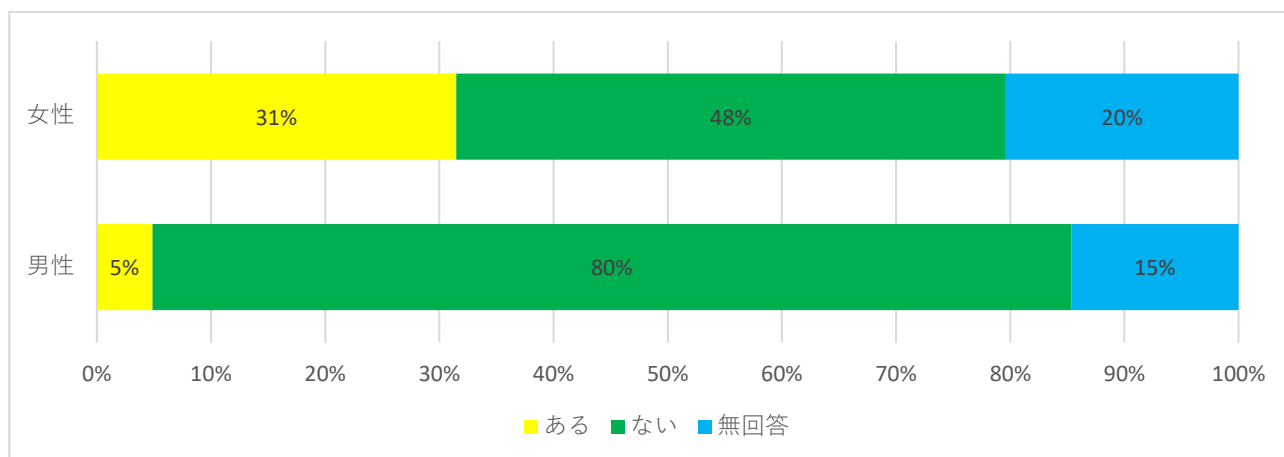
## (2) 家庭内の重要な決定は、主に誰が行っていますか（複数選択可）



「家庭内の重要な決定は、主に誰が行っていますか」という問いについては、「自分」という回答が一番多く、次に「夫」「妻」と続きました。

## 6. ジェンダー意識について

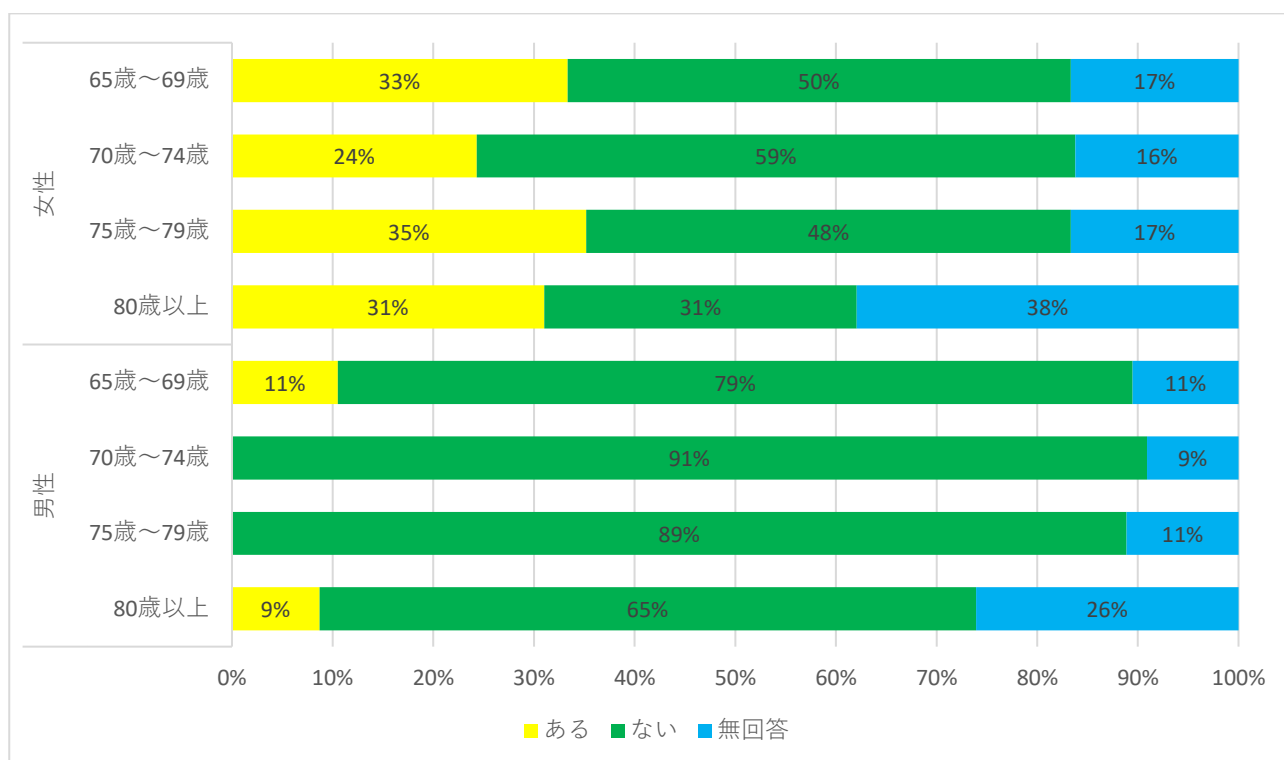
### (1) 男性あるいは女性であることで、不利益を感じたことがこれまでありますか



女性 (n=162) 男性 (n=82)

「男性あるいは女性であることで、不利益を感じたことがこれまでありますか」という問いについて「ある」と答えた人は、女性で約31%、男性で約5%でした。反対に「ない」と答えた人は、女性で約48%、男性で約80%でした。

世代別については、次のとおりです。



女性 65歳～69歳 (n=42) 70歳～74歳 (n=37) 75歳～79歳 (n=54) 80歳以上 (n=29)  
 男性 65歳～69歳 (n=19) 70歳～74歳 (n=22) 75歳～79歳 (n=18) 80歳以上 (n=23)

「ある」と答えた方は、どのような場面で不利益を感じたのか、具体的に教えてください  
(自由記述)

- 私の祖母の葬儀の際、私より先に夫の名前が呼ばれた時、不利益とは思わないが違和感を感じた。私にとってとても近い人なのに「ほとんど面識のない夫が先？」と思いました。(65～69 歳・女性)
- 勤務先でのセクハラ、女性だけお茶汲みなど業務外の雑用を強いられた。(65～69 歳・女性)
- 主に社会で働く場において、給与・人事の格差があると感じます。業務内容が同じであっても、入社の際の給与額が違いましたし、人事評価の際にも明確な格差を感じました。(65～69 歳・女性)
- 職場での性差別による仕事の内容の違いがあったため、女性が主力の職場に転職した。(65～69 歳・女性)
- 現在年金生活をしています。長い年数働いても正規職でないと低い年金です。男女差別を経験中です。(65～69 歳・女性)
- 家の購入やローンなど大口の交渉では、夫の同伴を求められた。(75～79 歳・女性)
- 女性だからとなにかにつけて制限されたり、我慢することが多い。(75～79 歳・女性)
- 女性と言う理由で仕事が無理と判断された。(75～79 歳・女性)
- 何かと女性の場合下にみられることが多いが男性がその場に加わるとガラッと変わる人がいた。(75～79 歳・女性)
- 昭和の時代、結婚退職は決められていました。理不尽でした。(75～79 歳・女性)
- 女性だからといって、とりくんでいる仕事に男性と同じ働きをさせてもらえなかった。(時間など早くにきり上げるなど、配慮された。)(75～79 歳・女性)
- 自分が若い時は義母から女性がすべてやるべきこと等を言われて、しかたなくやっていた憶えがある。(80 歳以上・女性)
- 銀行勤務をしていたが、女性であるがために役職になれなかった。(80 歳以上・女性)
- お茶くみ、トイレ掃除、食事づくり、給与・昇進(年金)、女性の低年金、賃金格差があった。(80 歳以上・女性)

自由記述全 42 件から抜粋

## 総括

### ジェンダー意識の現在地：表面的な「否定」と、心に溶け込んだ「偏見」

今回の調査から見てきたのは、かつての「男は仕事、女は家庭」という固定的な姿が、今の高齢者層の間も過去のものになりつつあるという変化です。しかしその一方で、ふとした瞬間に顔を出す「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」や、世代による意識の差など、まだ解きほぐすべき課題も浮き彫りになりました。

### 移り変わる意識と、世代・性別による「温度差」

「男性は外、女性は家庭」という考え方を否定する人は、女性で約8割、男性でも約6割に達し、高齢者層においても、固定的な性別役割意識に基づく古い価値観はもはや「当たり前」ではありません。特に炊事や育児を「女性の役割」と決めつけることに反対する声は女性側で非常に強く、意識改革が進んでいることがわかります。

しかし、詳しく見ると世代間の「温度差」も顕著です。「妻は仕事を控えるべき」という考えに反対する男性は、65歳～69歳層では8割を超えますが、80歳以上になると約6割まで下がります。また、75歳～79歳の男性層では、炊事や育児を「女性がすべき」と考える人が他の世代より多く、特定の年代には依然として強い固定観念が残っている様子が伺えます。

### 「らしさ」という優しい偏見の落とし穴

現代の課題は、はっきりとした差別から、心に溶け込んだ「偏見」へと姿を変えています。「女性らしい感性」を肯定する男性は7割、女性自身も半数に達しています。また、ケアやサポートを行う仕事（保育士・看護師・介護士等）を「女性向き」と捉える男性も半数近くいます。これらは一見、女性を尊重しているようですが、実は特定の役割に閉じ込めてしまう「善意の偏見」でもあります。

一方で、男性も「男らしさ」に縛られています。80歳以上の男性の3割が「男性は人前で泣くべきではない」と考えており、上の世代ほど「弱さを見せてはいけない」という重圧を抱えて生きている実態が見えてきました。

### 「不利益」の実感差と、積み重なった構造的な壁

性別による不利益を感じたことがある女性は31%に対し、男性はわずか5%です。この圧倒的な差は、社会が男性にとって過ごしやすい「標準」で作られてきたことを物語っています。自由記述には、過去の賃金格差や昇進の壁、そして現在の年金額の少なさなど、若い頃から続く構造的な不平等への切実な声が並びました。この認識のズレこそが、社会を変えるスピードを鈍らせている大きな要因かもしれません。

### 「新しい生き方」を示す、次世代へのエール

高齢者層にとっての課題は、自らが長年親しんできた価値観をアップデートするだけでなく、それを次世代にどう伝えていくかという点にあります。家庭内での何気ない一言や、地域活動での役割分担のあり方が、知らず知らずのうちに子や孫の世代の「無意識の思い込み」を形作っている可能性があるからです。

一方で、人生の荒波を乗り越えてきた高齢者層だからこそ果たせる役割もあります。一人の人間として互いを支え合ってきた経験を言葉にし、古い規範に縛られない「新しい生き方」を示すことは、若い世代がより自由に生きるための確かなエールとなるはずです。

### これからの多世代共生社会に向けて

世代や性別、働き方に対する価値観は少しずつ変わりつつありますが、心の中のバイアスが追いつくにはまだ時間が必要です。真の平等には、制度を整えるだけでなく、私たちが抱く「自分らしさ」を妨げる思い込みを、優しく解きほぐす対話が不可欠です。長年の「当たり前」を問い直し、誰もが自分らしくいられる社会を、世代を越えて共に育んでいくことが求められているのではないのでしょうか。

■発行  
令和8（2026）年3月

■発行元



〒730-0051  
広島市中区大手町5丁目6番9号  
TEL：082-248-3320 FAX：082-248-4476  
URL：<https://www.yui-port.city.hiroshima.jp/>



■スーパーバイザー  
横山 美栄子（広島大学 名誉教授）

■協力  
小滝 静子（広島市男女共同参画推進員）

本報告書の文章・画像等の無断転載及び複製等をご遠慮ください。